

白山ろくにおける交流人口の拡大

学生団体名 地域間交流研究会 （金城大学短期大学部）

参加学生 浦茉奈美 田中日奈子 佐々木真子 元満理奈 ほか計 33 名

1. 地域活動の概要

本事業では、地元自治体、保育園、幼稚園、子育て支援NPO、山間部の地域住民と連携し、平野部の若い親子が過疎化の進む山間部の高齢者のもとへ出向き交流するとともに、普段、平野部では体験できないような自然や伝統文化に触れる活動を企画、運営する。その際には、幼児教育学科の学生が専門的な知識を活かして親子を補助する。本事業を通じて、山間部と平野部の交流が進み、伝統文化への理解が進むことが期待される。

2. 地域活動の具体的な内容

- ・5/14（土）白山市中宮地区 餅つき体験、山菜採り

参加者数 40 名（学生 10 名、親子・地域住民 30 名） 「おやこの広場あさがお」の親子が参加
地域住民の指導の下、餅つきを体験。地域住民の案内で山菜を収穫した。



- ・8/17（水）木滑地区 流しそうめん、昆虫採集、水遊び、羊のえさやり体験

参加者数 44 名（学生 8 名、親子・地域住民 36 名） 西南幼稚園の親子が参加
事前に山間部に出向き、流しそうめんの準備を学生と地域住民とで行なった。



・8/27（土）中宮地区 いなり寿司・寒天スイーツ作り、昆虫採集

参加者数 47 名（学生 7 名、親子・地域住民 40 名） 「おやこの広場あさがお」の親子が参加
地域住民の指導の下、地元の食材を使って調理した。



・10/8（土）木滑地区 押し寿司作り、昆虫採集、羊のえさやり体験

参加者数 36 名（学生 6 名、親子・地域住民 30 名） 蝶屋保育園の親子が参加
地域住民の指導の下、地元の食材を使って調理した。



・10/22・23（土・日）金城大学 郷土料理模擬店出店

事前に山間部に出向き、地域住民からイノシシ料理を学び、学園祭において模擬店を出店した。



- ・ 11/5（土） 中宮地区 地物野菜ピザ作り、工作
参加者数 55 名（学生 10 名、親子・地域住民 45 名） 「おやこの広場あさがお」の親子が参加
料理方法について地域住民が指導。また、地域の植物を利用して工作活動をした。



- ・ 12/18（日） 白山市内 クリスマス会
参加者数 248 名（学生 8 名、親子・地域住民 240 名） 「おやこの広場あさがお」の親子が参加
学生がハンドベル、着ぐるみなど出し物を担当した。



- ・ 2/3（金） 白峰地区 雪だるま祭り 参加予定
地域住民の協力を得て活動をアピールする雪像の製作を予定。
- ・ 2/4（土） 中宮地区 雪遊び、郷土料理作り 開催予定
「おやこの広場あさがお」の親子が参加。

3. 地域活動の成果

- ・ 山間部と平野部との定期的な交流活動を実現できた。
- ・ 山間部の地域住民との交流を図ることで、伝統の文化や技術を学ぶことができた。
- ・ 活動への参加と共同作業によって親子の絆を深めることができた。
- ・ 子育て中の保護者同士のコミュニケーションを図ることができた。
- ・ 学生を含めた参加者が子育てに関する知識・理解を得ることができた。

4. 来年度の地域活動計画

来年度も今年度同様に、地域の保育園、幼稚園や子育て支援団体と連携しながら、平野部の親子が山間部の高齢者と交流し、自然や文化に触れる活動を企画していきたい。事前の打ち合わせや準備の充実、学園祭への出店など、活動内容は年々充実してきており、参加する学生数も増加し続けている。

しかしながら、例年と同様に、今年も母親と子どもの組み合わせでの参加が多く、父親の参加は少なめであった。今後、さらに父親の参加が増え、活動において父親も中心的存在となるよう、活動の存在の周知や活動内容の改善に努めたい。

5. 学生の感想

- ・事前の打ち合わせや準備が大変だったが、その分、達成感があった。
- ・郷土料理作りや流しそうめんの準備など、初体験の活動が多く刺激になった。
- ・保育実習では保護者と関わることはないの貴重な機会になった。
- ・子どもと一対一で関わる機会が多かったので、より子どもの特性を知ることができた。
- ・普段学んでいる手遊びや絵本の読み聞かせを実践することができた。
- ・前回参加していた親子に覚えていてもらえると嬉しく、励みになった。
- ・活動を通じて他の学生と親しくなり、友人が増えたのが嬉しかった。

事前の準備・打ち合わせの増加は活動を充実させるが、一方で負担感の増大や参加学生の減少に繋がるのが現実である。授業ではなくサークル活動として行なわれている本事業に、より多くの学生がより意欲的に取り組める仕組み作りが今後の課題である。

6. 地域活動に対する地域からの評価

- ・地域にはいない子どもや学生の活発さにいつも元気をもらっている。
- ・地域の定例行事として定着しつつあるので、今後も継続してほしい。
- ・学生の手助けによって可能になる活動もあり大変助かっている。
- ・定期的に若い人たちが来てくれるのでいろんな面において励みになる。
- ・新しい活動内容をこちらから提案するので、また来てほしい。

活動する地区によって、住民の活動への関わり方に違いがあるのが現状である。7年に渡って地域間・世代間の交流活動を継続してきた中で、参加者の固定化が進んだ印象もある。より活発で濃密な交流を実現できるよう、地区の方々との話し合いを通じて計画を修正していきたい。